

令和7年度 第2回小淵沢地域委員会会議録

- 1 開催日時 令和7年9月18日(木)  
午後7時00分開会～午後8時30分閉会
- 2 開催場所 小淵沢総合支所会議室
- 3 参加委員 藤代富美男、宮沢俊彦、小黑晃、中山宏樹、茅野博文、岩波信司、  
茅野キヨ子、今井一夫、佐野恭子、小林努、菊地勝、坂本秀樹
- 4 欠席委員 仁科浩一、藤原真理、深澤久
- 5 事務局員 小淵沢総合支所長 渡辺美津穂  
地域市民課長 吉田武  
地域市民課市民担当 本荘有  
企画部企画課計画担当 白倉健  
企画部企画課計画担当 古田敦子
- 6 議 題 (1) 地域委員会の役割やあり方の方針について  
(2) その他
- 7 公開・非公開の別  公開 ・  非公開
- 8 傍聴人数 0人
- 9 署 名 署名委員 10番 \_\_\_\_\_  
署名委員 12番 \_\_\_\_\_

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

お忙しい中、また遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。暑さも納まりつつあるが健康に留意して過ごしていただければと思う。今年度2回目の地域委員会である。懸案の新しい地域委員会のあり方について議事を進めていければと思う。今日は本庁企画課からもお二人の職員に同席いただいている。疑問、その他意見、何でも結構ですので、活発な意見をお願いしたいと思う。

## 3 小淵沢総合支所長あいさつ

新年度が始まり、半年が経過するところであるが、地域委員会からの補助金を受けての事業が順調に進められているところである。先月10日に「すずらん祭り」が開催されました。雨の中だったが大勢の方が楽しんでいる姿を拝見させていただいた。また、子どもたちも混ざって小淵沢音頭を踊っている姿を見ることができ、大変うれしく、懐かしく感じたところでもある。来月19日には「馬のまち祭り」が開催される。こちらにも多くの方が参加されることを期待している。本日の地域委員会については、本庁企画課からも担当が同席している。今月1日に開催された第2回地域委員会連絡協議会の内容報告などを行いながら皆様のご意見もいただければと思う。

(小淵沢エリアビジョンの進捗状況について：事務局)

議題に入る前に、事務局から前回の会議でも触れた「小淵沢エリア振興ビジョン」の進捗状況について」報告する。前回、県の計画として、今年3月に「小淵沢エリア振興ビジョン」が策定されたことを報告したが、振興ビジョンは、「馬を核として」小淵沢エリアの高品質化、高付加価値化を図ることにより、世界に誇る魅力的な地へ発展させるとともに、地域の事業者、住民等による持続的な地域振興を目指すものとなっている。計画期間の10年間において、これまで築いてきた歴史文化や自然環境を次世代に継承していくことを基本とし、「小淵沢ブランド」や「小淵沢スタイル」を確立していくことを将来像としている。

このビジョンを実現していくためには、様々な関係者において取組がなされ、またこれらが連携していく必要があるということから、「民間事業者や関係団体」、「馬関係者」、「行政」からなる、「北杜市小淵沢エリア振興ビジョン推進会議」が立ち上がり、8月18日に第1回目の推進会議が開催された。会議の委員は18名で構成され、第

1回目は顔合わせということで、会長、副会長が選任され、会長にスパティオ小淵沢の代表取締役の北杜市副市長の山内副市長が、副会長には馬事振興センターの渡辺専務理事が選出された。

今後の進め方としては、「観光」「道路」「景観」「馬関連」「その他」の5つのプロジェクトチームを設立し、チームごとに取り組みを進めていくことが確認された。また、事業者や団体からの報告があり、「小淵沢エリア振興ビジョン」の実現のため、民間有志で組織した「馬のまち小淵沢活性化協会」の紹介があり、「住民と馬が共存できる場づくりとしての「小淵沢ルール」の構築や総合馬術競技の聖地化に向けた県馬術競技場の整備などについて、取り組んでいきたいとの話があった。また、動きがあれば報告させていただく。

#### 4 議題

(北杜市地域委員会設置条例第8条2項の規定により、会長が議事を務めることとしているため、藤代会長が議長を務め議事進行。)

(会長)

議長を務めさせていただく。活発なご意見をいただきながら有意義な委員会となるよう、ご協力をお願いします。この会議は、北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条公開の原則に基づき開催されている。本日の議事内容には、非公開情報は含まれていないので、公開とする。(異議なし)

次に、議事録署名人の選出を行う。佐野恭子委員、小林努委員をお願いします。

これから議事に入るが質問は議題ごとに受け付ける。

なお、先ほど事務局から説明があった内容についてのご意見等はあるか。

(委員)

前回議題に入れて説明いただき、こうした進め方はありがたい。直近の報告をいただいた。構成メンバーで地域委員がいれば教えていただきたい。

(事務局)

観光協会小淵沢支部の支部長が入っている。

(委員)

先ほど、5つのプロジェクトチームの話があったがもう一度教えていただきたい。

(事務局)

5つのプロジェクトチームについては、「観光」、「道路」、「景観」、「馬関連」、「その他」である。「その他」については全体のとりまとめなど、である。

(委員)

地域の活性化ということを密接に行っているが、県からの高付加価値化、マーケットと市が進めているターゲット層が違っているのではどのようなバランスをとるのかということが宿題としてあるが、JR中央線の上の方が高付加価値化ということがあり、下の方が自然や文化、歴史をきちんと守るということや富裕層ではなくて住民が寛げたり、産業観光振興につながるような、そういった捉え方をしたらよいというような声が地域でたくさん出ていたのでお伝えしておく。

(1) 地域委員会の役割やあり方の方針について

(議長)

先日事務局から資料が配布されたと思う。これに関する意見を皆様からお伺いしたいと思う。9月1日に地域委員会連絡協議会に参加したが、その後の変更があればそれも含めてお話いただきたい。

(事務局)

小淵沢地域委員会を6月4日に会議を開催し、「地域委員会の役割やあり方について」様々な意見をいただき、この意見を取りまとめ、企画課とも共有する中で、「地域委員会の役割、あり方の方針」案として7月にまとめ、この方針に対する意見をお寄せいただいた。8つの地域委員会から寄せられた意見も取りまとめ、9月1日の行われた、地域委員会連絡協議会において皆様からの意見をもとに、「方針」と「お寄せいただいたご意見」が示された。

地域委員会の目的は、地域委員会設置条例にもあるように、「市民の意思を市政に反映しやすくする」ということであるが、条例に「地域委員会の権限」として記載していることは3点あり、小淵沢の地域のことについて、「市長が諮問する事項について、審議し、答申すること」、これに関しては、他の地域のことについても諮問する可能性があることが条例では規定している。「市が処理する事務に関する事項について、市長に意見を述べること」、「市長が委任する事務に関する事項について、処理すること」が書かれている。地域委員会における、「予算使途提案事業」については、この3つめ

の、「市長が委任する事務に関する事項」に含まれており、こうしたことが、地域委員会の役割となっている。

地域委員会の課題として、市が実施している事業を「追加している事業」や、8つの地域で「同様に行われている」事業がある、などがある。市の予算を効果的に活用していくためには、こうした事業に対しては、統合し、市で統一したルールを作る必要がある、と考えているところである。

こうした中、これからの地域委員会のあり方の見直しとしては、「3つの柱」を方針としている。地域委員会の役割を大きく変えていく、ということよりも、「本来」の「よりよい地域づくりを行っていく」という地域委員会の目的を進めていくために、特にこれから行っていく内容を、「3つの柱」として示しており、1つ目が、「地域づくりのための事業提案、実施」、2つ目が、「地域住民主導で地域を盛り上げる」、3つ目が、「横並び事業の統一ルール」としている。

このための方針として、1つ目の「事業提案、実施」に対しては、市政報告会への参加、研修会の開催、地域委員会同士の交流、などを挙げている。2つ目の、「地域住民主導で地域を盛り上げる」ということに対しては、地域住民主体によるお祭りの実施や、地域活動担い手育成、支援への取り組み、などを挙げている。3つ目の「統一ルール」の方針については、「高齢者給食サービス、神楽や太鼓などの伝統文化の保存」、「こどもの通学路見守りやボランティア育成」、「行政区への一律補助」については、市で統一したルールを作っていく方針を考えている。こうした統一ルールは、市の担当課において検討していくこととなるが、同じような事業であっても、事業の目的や注力したい事業は、地域によって様々な部分もあることから、慎重な検討が必要であるとも考えているところである。

この中の、「行政区への一律補助」について、前回の会議においてもご質問があったが、その配分方法は、全体総額を360万円とし、均等割を40%、戸数割を60%としている。均等割は360万円の40%分の144万3千円を13地区で割り、1地区あたり11万1千円、残りの215万7千円は、小淵沢の戸数1945戸で割った額となっており、令和7年度は、1戸あたり約1,109円をそれぞれの地区の戸数に応じて配分している。

また、地域の特色ある事業は引き続き予算使途提案事業を活用していく。まとめとして、様々なご意見もある中で、早急に結論が出せないものもあることから、できる事から取り組むこととし、令和8年度以降も取り組んでいく。

次に、9月1日に開催された、「地域委員会連絡協議会」の内容だが、各地域委員会

から取り組み、課題等についての意見交換がされた。この中で、「伝統文化、祭り等の継承について課題であること」、「地域の活性化について話し合い、行政に反映させていくことが重要であること」、「地域や他の事例を学んでいく必要があること」、「委員の構成について、検討が必要であること」、「事業の統一ルールについては慎重に検討してもらいたい」などの意見がだされた。

また、今後の予算についての質問があり、この方針に基づき、統一ルールについては事業担当課と協議を行っているところであり、協議が整ったものについては、予算に反映させていきたいことや、今後のスケジュールとして、11月頃に「令和8年度の予算編成について」の内容を示すことや、来年1月頃に昨年度同様に市長ヒアリング実施予定であることが示された。

(企画課)

9月1日の連絡協議会後の動きということだが、統一ルールについて所管課にはこの役割、方針を作成する段階から準備をお願いし取り組んでいるところである。令和8年度の予算に反映できるかどうかは、今日伝えられるところはないが、慎重に統一ルールをまとめてもらいたいということが意見でも出されている。連絡協議会でもそのような意見もあったことから、それらを踏まえた内容を所管課にも伝えている。

(議長)

慎重に、速やかにというところが進め方だと思うのでよろしくお願ひしたい。

(議長)

本題に入るが、前回、各委員から順番に意見をもらったが、前回同様に順番に意見をもらっていききたい。時間も限りがあるので3分程度でお願いします。

(委員)

特にはなし。

(委員)

今まで、市長の諮問を審議する、ということはほとんどなく、予算をどのように使うか、ということだけに終始してきた。地域委員の本来の役割は、地域のことを話し合う、ということであるから、「地域づくり」や「地域の特徴」を話していかないといけない。「小淵沢だけ」のことはここで話さなければならない。2、3年前から少しおかしいのではないかと、と言ってきたことが市の方にも伝わり、こういうことになってきたのではないかと、思っている。地域の課題をここに出してもらい、その意見を募

る、というやり方がよいのではないかと思う。

(委員)

全体的によくわからない。取組むことが多い。構成するメンバーについても、地域に根差している方々を公募してみてもどうか。民生の代表としては構成メンバーとして適していないと考える。構成メンバーを見直してもらいたい。

(委員)

特になし。

(委員)

先ほども言われていたように、横並びの事業については、慎重に対応をお願いしたい。給食サービスだが、小淵沢ではこの回数を行っているが、他の地域で行っていないところとかもあるので、そのあたりでも慎重に、ということがあると思っている。すずらん祭りにボランティアとして参加したが、若い世代の祭りになっていると感じた。ずっと若者が参加する祭りで行ってほしいと思う。

(委員)

配布した資料の説明をさせていただきたいと思う。地域委員の役割については、あり方、方針が決まったということだが、もう1枚の委員の資料で、条例を改正しなければいけないと言っているが、そこが始発点だと思う。2年前から小淵沢は議論を行ってきており、こうしたことが今回に繋がっているのではないかと思う。2年分の議事録をまとめて一覧化し行政にも渡しているが、1点明解なことは、今年、地域委員会のあり方について、一番の主課題であると検討したのは、小淵沢の委員だけであった。ありたい姿と実態に乖離がある、ということを経験する必要がある。一方で、祭りを地域委員が中心に行っているところもあり、地域委員で行っている役割が随分違っている、ということが可視化するとよい検討材料となった。建設的な議論ということで、今回、一步大きく踏み出した市の姿勢などに対しては、敬意を表する。仕事柄、こうした課題解決には、根本原因、真因をきちんとしないとなかなか解決できない、ということを経験している。20年間、1億円をかけてきたものの振り返りをして、どこが足りなかったか、ということを出さないと、上辺だけの方針に引きずられてしまう。バラ色的に書くことは否定しないが、一人一人のステークホルダーに落とすときに、どうなのか、ということを感じる。結論的に同じ課題・方針になればそれでよいが、20年間なぜ停滞したか、ということについては、しっかり議論する必要があると思う。

先ほど話があった9月1日の会議は、年初の計画では8月と10月に行うというものを見た記憶がある。この9月の会議はどちらのものか。

(企画課)

8月実施予定のものである。

(委員)

委員の主体性ということで、なかなか議論が深まらない、という点については、「仕組み」や「環境整備」ということを考えていただきたい。「提案を歓迎する環境の育成」や「埋もれた知見の活用」、例えば、公募は審査を通過してきており、公募は、何十年の蓄積や地域委員に問われていることであるからそういったものを活かすべき。委員構成についても多様な男女、若い人、そういった形での検討や、過去のアレッジ化ということで、他の地域委員会のことが見られたらよいのではないか。「提案すべき」という方針が、委員の自発的な「提案したい」という意欲に繋がる、ということが必要なだろうと思う。主役は地域委員、やるのは、地域住民である、と書かれているが、「権限と責任」の明確化、ということはいっしょに議論する必要があると思う。今回変わったと思うのは、市長の方針だと思うが、地域出身の人が支所にいるというのは、大きく大事なことで、今までの方も苦労されてきてはいるが、地域の顔を知っている人たちで一回きちんと固める必要があると思う。あるところではサポート役をやっているところもあるが、今のリソースから言ったら企画段階から積極的に市の職員に参与してもらいたい。その分は民間としては当たり前のことであるので、休日として振り替えればよい。そういったことが現実的には必要だと思う。ロードマップということで、今後のスケジュールは予算のことが書いてあるが、9月1日のときには少なくとも今後どのようなスケジュールか、ということがないと、なかなか進まないと思う。「PDCA」の「PD」は行うが、民間で言えば、チェックを振り返ってからPDCAを行う、ということ、どこに向かって何を行うか、ということができるようなことをお願いしたい。

(委員)

私は広い範囲では言えないが、伝統文化において、数年来、地元の神楽団に参加し活動してきた。10年間くらいまでは参加者が多かったが、地域委員会からの6万円で繋いでいくだけであった。令和に入ってから会員が減り、辞めていく人が増え会員が減り始めたときに、残された会員だけでこれからどうするか、ということ話し合い、まず、小淵沢地区で神楽をやっているところがある、ということを知ってもらう。そのためには、広告なども必要だがメディアを使ってみてはどうか、ということ

から、いろいろなところに声をかけて取材を受け、少しずつ広がってきている。地域住民の中でも新住民がおり、そのような人たちに声をかけ、職業によってポスターのデザインなど、神楽には参加できないが、外側での応援も募ってきた。最近では、区内だけでなく、長野県や町内でも別の地区から参加いただき、子どもたちも繋がってきている。地区での行事であり、氏子でなくてもよいのか、という問題が出てきたが、氏子総代とも協議をする中で、人材が足りないことは理解いただくなかで、ルールを作りながら、どこの誰なのか、ということを確認しておく、ということをやっている段階である。

(委員)

地域委員会の委員構成については、来年改選になると思うが、それまでにしっかり示していただきたいと思う。私もいろいろな地域のイベントや団体に関わっている中で感じるのが、馬ひとつにしても、馬に乗っている人と乗っていない人では、乗っていない人の方が圧倒的に多い。そういう方々の意見もたくさん聞きたいし、小淵沢がどのような町で、何を大事にしている、どのようなものを守っていくか、といことは、自分の中でも揺らいでいることが多い。そういったことを知りたいし、皆さんの話を聞きたいし、皆さんで話せる機会が出来たらいいと思っている。例えば地域委員会が音頭をとって小淵沢町の今行っている一つ一つについて、どのような形で続けていったらいいのか、など、全て把握しておらず、個々に聞いても違う意見だったりもするので、自分の中で理解するために皆さんが集まる機会ができればよいと思っている。

(委員)

年月が長く、学識経験者という立場でいたが、最初のうちは各事業の予算使途提案事業を精査するというので個別の事業の意見は言えたが、「あり方」の話になってきたときに、何がおかしいのかが漠然とし過ぎているためついていけず、概念を話しても私には意見を言えることがなかったので、地域委員の学識経験者という立場でここにはいけないのではないかと、いうことを思っている。今年1年で統一ルールを作っていくということはとてもいいと思うが、個別の活動のことについては言えば、公民館の活動に人が集まらないということがあり、私が地域になじめるきっかけだったのが分館球技大会や体育祭などスポーツの分野でいろいろな人と知り合うことができた。それが今は人が集まらないためできなくなっている。もっと公民館の活動が活発にならないか、など、個別のことは思うことはできるが、図書館や中学校の問題を話し合っている中でも、小淵沢ではどうか、という個々の問題では言えるが、「あり方」というとなかなか意見が言えない。学識経験者という立場であれば言え

ることがない、ということで、公募と役職の代表者で委員を構成するのはどうか、ということになるが、公募で熱意のある方が集まってくることはとてもよいと思うが、返ってまとまらないのではないかと思う。いろいろな思惑がある方が何人も集めてということもあり、なかなか難しいと思う。公募を半分にすればいいのか。悩ましいと思った。若者、年配者、男女、幅広い人から選ぶのがよいのではないか。ただ若い人は忙しいので、この資料を読み込むにも非常に労力がかかっており、公募のときのよう何回も計画書を作ったりすることはできない。また小淵沢の中でそこまでできる人はそんなにいないと思う。難しく提案できることがなかなかない。

(委員)

私も学識経験者としてここにいる。私自身も少し気が引けている。意見のとりまとめを見ると、各地域委員会の活動状況や様々な課題を知ることができる。今回の「3つの柱」には概ね賛成したいと思っている。共感したことが3つあり、1つは、地域課題を話し合い、市へ事業提案を行うというシンプルな姿勢、2つ目は、地域イベントについて、ホースショーを市としてのイベントにすべき、ということについて、他の地域からの意見があった、ということ、3つ目は、地域力を引き出す農業の分野をもっと活かせれば、という意見があったことに同感する。今回の意見集約を踏まえ、市として見直しと方向性について、できる限り打ち出してほしい。今の見直しはとてもまとまっているが、更に皆さんの意見を踏まえてぜひ修正してほしい。スケジュール的には、各担当課での協議を終えて、来年度から一部でも実践できるように取り組んで進めていただきたい。設置条例の改正、来年度の予算など大変だと思うが、早めの対応をお願いしたい。地域の問題提起や市政の提言を行い、その実践状況を検証していくことも必要だと思う。地域委員会としての役割だと思っている。意見に会議の運営について行政主導か委員主導か、ということがあったが、長期的な会の存続、効率的な会の運営を考えると、行政主導の運営を基本として進めていくのがよいのではないかと思った。

(委員)

私も長期に渡り携わってきた。今、一番問題になっているのは、山梨県も人口が少なくなってきたおり、北杜市も同様であるが、北杜市が住みやすい場所であり、子育てに優しい場所で出生率も高い状況を求めていくことが必要である。空き家バンクなどにも取り組んでいるが、なかなか成果は出ていないと感じているが、市においても計画を立て、地域の農業なども含め住みよい場所にしてもらいたい。人を増やすことを考えていきたい。また、小淵沢音頭は心の中に取り留めておけるようなものがあるが、すずらん祭りにおいても復活させようとしたが、今の小学生でもこのようなもの

があったのかという感じだと思う。地域というものを、そういうことからでも小中学校で教えてもらうように、関係している団体などからも要望して地域のあり方を教えていってもらいたい。また小淵沢においても、木の寿命もきていることもあり、山林の伐採、間伐が多くなってきている。地元の住民、子どもが一緒になってそういったことをやったという形を作り、地域を盛り上げてもらえればありがたい。小淵沢の場合は他の地域と違い、予算の使い方など早くから対応している。他の地域ではなかなかそこまでやっているところはない。小淵沢のこのような形がよければ、各地域にも広げ北杜市を進めていってもらえればありがたい。

(委員)

皆さんの意見とほぼ同じである。設置条例第1条が地域委員会を表していると常々感じている。地域委員会は「地域」であるから、その地域をいかに活性化できるか、平和に過ごせるか、ということを考える。今回8つの町でできるだけ均等に意見を上げられるような委員構成を作ってもらいたい。小淵沢で言えば、13の行政区があり仮に、1名ずつ選んで地域委員を出せば、その地域の問題点が極めてスムーズに把握できる。それを持ち寄って、地域委員会では議題とするかどうか判断し、それを行政にあげていく、というステップを持てたらよい。あまり意見の強い人が何人も集まってしまうとケンカになってしまう。統一ルールについては、福祉の問題について特に重要だと考えている。ただし、ルールの位置の問題があり、最低限のルールにしないと地域が動きづらくなり、非常に窮屈になる。最低限のルールを決めるのはいいことだと思うが、上のレベルで行うと、実施することもしないこともその地域の特性であり、その地域の特性を活かせる範囲での最低限のルールで統一ルールは行うべき。あくまでも地域の問題点をクローズアップして、すくい上げ、行政に伝える。これが本来の地域委員会のあり方だと思う。予算も大事なことはあるが、それと同様に、それ以上に地域の問題点をすくい上げる、というところに地域委員会は力を注いでいけたらと考えている。

(議長)

それぞれ貴重な意見で頷ける内容であったと思う。

(委員)

前日も全員から意見が出た。方針に対しての意見ということで、次にどのように持って行くかが課題かと思う。

(議長)

資料を見たうえでの発言で、前回よりも踏み込んだ内容かとは思いますが、企画課の方でこれだけの意見が2度3度に渡って聞かれる、ということは参考にすべき内容だと考えているので、ぜひ活かしていただきたい。

(企画課)

役割とあり方の方針については、企画課と各町総合支所事務局と作り上げてきた。意見の中で、「条例の見直し」や「あり方の方針」が修正される、というような話があったかと思うが、現在の考え方としては、条例については、地域委員会は役割を終え廃止をする、ということが進んでいたところ、現市長により地域委員は必要であるとの判断となり、地域委員会の条例の主旨である、「市民と市が協同してよりよい地域づくりを行う」ため、「市政が常に市民の身近にあることを保障する」ためということを重要であると考えていることから、条例の改正は考えていない。そのような中、20年経過した地域委員会が、もう一度役割やあり方を見直すということで、本年度行っているところである。この方針の考え方として、8つの地域全て同じようにする、ということではなく、最低限、この役割・方針に向かい、これに各町で加えていくという方針としている。地域委員会ごとに差があることは、地域委員会の姿としてはありうると思っている。各町の考えがあってよいと考えている。

(委員)

連絡協議会は、会長等が集まり行政がおり、そこでの質問意見等はそこで集約されるが、今日の意見の中でもこのような意見に対して「このように考えている」、ということがあれば集約されてくる。今日の意見の中で、現在の市の考えを伝えていただくようにすれば、発言した人もそのように考えているのか、ということが分かり、他の委員も応えやすくなるので、そのようにしてもらいたい。

(議長)

企画課での修正はない、ということであったが。

(企画課)

考え方としての修正はない、ということだが、各町でプラスアルファの部分については行っていく、ということで捉えていただきたい。

(議長)

他にあるか。

(委員)

小淵沢の祭りなどについて、支所の職員も少なくなっていることもあるので、中には協力してもらっている方もいるが、本庁で小淵沢出身の職員が率先して、一緒に行っていくような協力はどうか。

(支所長)

市においても積極的に地域に協力することは心がけている。職員ももともと地元で密着し居住しており、職員という立場でなく、一緒に祭りや行事に参加していく、という思いはある。職員も承知しているところであるが、再度呼びかけていきたい。

(委員)

今まで予算使途提案事業の内容の精査を行ってきたが、今年度は「あり方の方針」ということで、予算使途提案事業のP D C Aはないのか。

(議長)

来年度も実施する予定。予算と内容について皆さんで意見を出し合っていく。

(委員)

今年の「すずらん祭り」を大まかに話すと、事業者側の発表だと約4千人の来場者、高校生200人が祭りに直接関わった。ボランティアで100人、出店関係で100人であった。北杜高校が2/3くらいが一番多く、甲陵生が2~30人、帝京三高生も同様であった。その若者が友人を連れて来るなど、かなり賑わった。実行委員会は十数人いるが、地元が2、3人しかいない。市の職員が一人くらいいてもいいと思う。市の職員が関わらないと、見る人によっては、好きな人が勝手にやっている、ということになる。市の職員という肩書でなく、一個人として実行委員会に関わっていただきたい。「こぶちさわすずらん祭り」という名前であるから、地元から4、5人はいないと、と思っている。市外から来た人が半数以上である。実際の作業となると軽トラックもない。もう少し町民の方がすずらん祭りを盛り上げる形にしないといずれ廃れてくるのではないかと、高校生がいないと厳しい状態である。山梨県の特徴として、幕府直轄地であったことから集会の禁止が長くあった。そのような関係もあり、山梨県は祭りという意識が根付いてない。県外の方は生まれたところで楽しい祭りがあったという意識があって参加している。小さい子どものときから育まれた感情が出てくるのではないかと、思っている。今年はホームページを使い参加者を募集した。4、5人いたが、参加してみると楽しいとのことだったが、こうしたことが関係人口や観光客に小淵沢を知っていただき、住んでもらうということもあるので、広げたい。また、ホースショーも人手がなく、ぜひ地域委員会の中で手伝っていただけ

る方がいればお願いしたい。今、流鏑馬が話題性があるが、武田騎馬隊もできればよい、と思っている。甲冑等に費用がかかるが、地域委員会からも盛り上げていただき、戦国最強の武田騎馬隊が再現できるよう、よろしくお願いしたい。

(委員)

この中で補足説明する。すずらん祭りについて、ユーチューブでも発信しているので、ぜひ見ていただきたい。

(2) その他(今後のスケジュールについて)

- ・白州地域委員会合同研修会 10月4日(土)午後予定  
白州の消防署、福祉施設の見学、意見交換
- ・小淵沢地域委員会の今後の予定  
12月頃 第3回小淵沢地域委員会予定(令和8年度の予算使途提案事業審査)  
予算使途提案事業募集、新規事業の検討
- ・予算使途提案事業イベントへの参加
- ・市政報告会 10月23日(木)午後2時から八ヶ岳やまびこホール  
(防災関連の講演を予定)

5 閉 会            副会長

午後8時30分終了